

ソサイエティ

第3期 OB 森岡 耕作

巷には 140 字のつぶやきが溢れ、SNS に関する映画も公開された。ハンカチは仲間を「持っている」ことを誇らしげに語った。察するに、人々は相互のつながりをますます求めているようである。そして、その背後にはつながりの希薄化の進展があるのかもしれない。つまり、人々が相互の関連を薄くしているからこそ、それを強く求めようとしていると考えることもできよう。「無縁社会」が目の前に現れて、人々はいよいよそれに対する危機感を覚え、そうならないための方策を希求しているのかもしれない。それゆえに、つながりを具現化するシステムが構築され、その秘話を娯楽として楽しみ、さらには仲間に恵まれたことを宣言する。

人間のつながりについて考察する論者は多い。手近なところで言えば、我らが「先生」福澤諭吉は、社会の本質を人間交際じんかんこうさいに求めた。すなわち、人々が交わることによって社会が成立すると考えていたようである。同様に、私の好きな社会学者も、社会の本質をコミュニケーションに求め、種々の社会をコミュニケーションが連鎖する様子として描写してみせた。貨幣をめぐるコミュニケーションによって成立する「経済」(小野ゼミ OB・OG の方々は多様な企業にお勤めです!)、真実をめぐるコミュニケーションによって成立する「学問」(小野ゼミには、塾の内外、国の内外を問わず、多くの院生が集まってきています!)、美をめぐるコミュニケーションによって成立する「芸術」(頑張れ、太郎!)、愛をめぐるコミュニケーションによって成立する「家族」(毎年、ご結婚ご出産される OB・OG の方々がいらっしゃいます!) など。しかしながら、社会が人間交際やコミュニケーションによって成立しているとは考えず、個人が集積したものに



畏友、田中成幸(左)と春合宿に OB として参加したときの著者(右)



小野ゼミ現役生の後輩たちに就職内定を祝ってもらい目を細めすぎた著者（左）

他ならないと考える論者もいる。＜社会＝ Σ 人間交際＞と考えるのか、＜社会＝ Σ 人間＞と考えるのか。いずれを選択するかは、私が知りうる限りで言えば、個人の経験に影響されることが多いようである。

さて、私事。今年の4月から東京経済大学経営学部にて奉職させていただくこととなった。小野ゼミに入会を許可されて以来、マーケティングを教わる立場であった私が、あと数ヶ月もすれば、それを教える立場になる。学生から教員への相移転に対象の戸惑いを隠せないのが正直なところであるが、他方で、好きなマーケティングについて、その研究と教育に専念させていただけることにこの上ない幸せを感じている。そして、そのような幸せを享受できるのは、私一人の力では全くない。むしろ、多くの方々とながらつながっているからであり、その方々からいただいた多大なる助力によるものである。小野先生、高橋先生、先輩、同輩、そして後輩。すべての方に言葉にならないほどの感謝を申し上げる次第である。

私自身について言えば、この就職という転機は、社会が人間交際によって成立しているということを信じさせるに十分な経験である。研究者としての私。教員としての私。すべての私という個人は、多くの方々とのつながりの中であって、はじめて形成されるものである。このような考えに立つとき、マーケティング学徒としての私は、ダイナミックなマーケティング現象を捉えるために、じっと立ち止まり、書物を通して先人たちとコミュニケーションし、しかし、しずかに佇んでいる真実を感じるために、フィールド・ワークや調査を通して動きながら現場の人々とコミュニケーションしたいと思う。そう、これまで教わってきた先生方がそうであるように。他方、教員としての私は、学生とのコミュニケーションによって、また、学生間のコミュニケーションが多く生起する場を提供することによって、彼らがつながりのなかで個人を形成できるように努めなければならない。そう、小野ゼミがそうであるように。

現代社会の諸相、先人の見識、そして自らの経験。それらすべてが進むべき道を示してくれている。